

1. 教育の責任

* 国際看護学部の教育理念である多様性への理解と受容及び看護ができる看護教育の一翼を担っている。

2. 教育の理念

* 日本のグローバル化に対応できる看護師を養成するために、日本人と共に暮らす多様な人々がもつ背景を理解し、適切な医療や看護が提供できるよう支援や看護ができる看護師を養成している。そのため、既にグローバル社会となっている阪神地区において、定住外国人や訪日外国人、在外日本人に加えて、移民、難民問題についても理解を深める教育と実習を展開している。

* 国際実習においては、学生が日本との文化の違いを理解し多様な人々への尊厳と共生につながる看護へと発展できるような異文化の中での教育と実習を展開している。

3. 教育の方法

講義では地球を一つの多様な地域としてとらえる視座を培う講義内容とし、演習ではグローバルコミュニケーション力を培うための優しい日本語や英語を使用したコミュニケーションクラスを設けている。また、国際看護演習では医療英語を用いた外来での対応や診療の介助、入院清潔の説明が行える演習を実施している。くわえて、やさしい日本語を用いた資料作成や説明の方法についても学修する。実習では、多様性がもつ文化的背景や価値観をより理解する機会とする実習としているために、地域における定住外国人支援センターや多言語センターまたは JICA や検疫所など、日本における医療や看護、感染症対策の実際と課題について、座学での学びを更に深める機会としている。

本学部の目標である医学英語検定 4 級合格に向けて、演習では、医療英語の学修を促進するために、医学英語語彙力を高めるために、学生が日本語で学んだ解剖学や生理学の知識とリンクできるように、図やイラストを使用して医学英語語彙を増やせるように講義した。また、医療英語を用いたコミュニケーション演習では、臨床における外来や入院などの場面で使用する表現方法を学び、卒業後外来での対応や翻訳機、優しい日本語、イラストなど、多種多様なコミュニケーションツールとしての英語を使用して、対象のコードを把握する知識や技術を学修できる内容としている。国際看護学実習Ⅲは全員を対象として MOU を締結した看護系大学での臨地実習を行った（一部海外で実習できない学生には国内での実習先を提供している）。海外実習では、現地の看護学生直接ディスカッションできるように事前に実習先となる相手国の健康課題や保健医療についての課題を与え、現地では自ら現地の健康に関する状況をフィールドワークさせるなど、自主性をもって異文化やその国の健康問題を考えることができるように工夫した。

統合実習では 10 名の選抜メンバーがタイ・チェンマイ大学で講義演習や病棟での患者受け持ちを行い、実際に現地の患者に対してアセスメントやケアを通して看護ケアを展開した。学生が異文化の中でその能力を発揮できるように、海外実習病院の臨床実習では、技術的、知識的、言語的、精神的なサポートを行った。

4. 教育の成果

* 学生は日本人以外の定住外国人や訪日外国人または在外日本人の医療や看護の実態を理解し、課題への取り組みについても考察を深めている。また、MOU を締結している看護系大学の学生との交流なども活発に行い、諸外国の現状や今後の日本の医療や看護での取り組みについても意見交換を行っている。英語民間試験も受験し、英語の専門的な医学用語の習得や、実際の臨床で使用できる英語を用いた会話への取り組みが促されている。この他、実習が終了しても、施設によってはボランティアで関わるなど交流が継続し、地域に暮らす人々を看護する必要性の理解し、実践している学生達も大勢育っている。

* 海外実習を行った学生が提出した、実習後の記録やレポートからは、日本と実習国との文化や生活に関連する健康課題の違いを理解し、医療や看護ケアにおける違いを学ぶことができていることが記載されていた。さらに、その違いだけでなく、なぜそのような違いが生まれるのかを考察し、日本の医療や看護ケアへの課題などにも学びを発展させることができていた。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：望月 明見 作成日：2024年1月5日

5. 改善への努力と今後の目標

* 専門的医学英語語彙を習得できるように、授業中に配布した資料は授業後の事後課題となるような記述式のワークシートとした。また、それらの事後課題の内容に対するミニテストを行い学生の復習を促すことで、知識の定着を図った。医療英語を学ぶ国際看護演習では、1人の教員が10人程度を受け持つロールプレイやGWを実施することで、臨床で使用できる「話す」という技能を向上させ、コミュニケーション能力を上げることができるよう指導している。

* 今年度の医学英語検定合格率を上げていくことが今後の目標となる。そのための学生の検定合格に向けたモチベーションの向上やサポートに関しての改善を図ることが必要である。

* 学生の英語によりコミュニケーション能力にはかなりのばらつきがある。海外実習ではプレゼン能力やディスカッション能力が求められるので、学生全体のスピーキング力の向上をより演習などで一層促すことが必要である。

【添付資料】

国際看護演習Ⅰ シラバス

国際看護演習Ⅱ シラバス

国際看護学実習Ⅰ シラバス

国際看護学実習Ⅱ シラバス

国際看護学実習Ⅲ シラバス

統合実習（国際看護学領域）シラバス